

決算書の読み方のポイントについて

決算書は会社の一年間の成果を表す成績表であり、人間に例えるならば健康診断書のようなものです。では、健康診断書はどこに注目して読むべきでしょうか？

比較的わかりやすいのは、損益計算書（以下 PL いう）ではないでしょうか。

売上がのびている

粗利益も十分とれている

費用も節約して減らせている

結果として
今年も黒字を出すことができた

めでたし
めでたし



ここまでで決算書を読むことをやめていませんか？
それでは会社の経営状況を十分に把握することはできていません。

なぜなら PL だけでは会社にとって最も重要な資金繰りをみることができないからです。PL と合わせて、貸借対照表（以下 BS いう）を読み解くことでお金の動きがわかり、会社の実態を本当に把握することができるのです。BS はわかりにくい、ということをよく耳にします。しかしポイントさえつかめれば決してわかりにくいものではありません。

そこで BS を読み解くポイントと BS からの財務改善の方法をご紹介します。と思います。

BS と PL はつながりを意識する！！

BS と PL は全く別のものと思われがちですが、実はつながっているのです。当期の損益を PL では、収益と費用の差額であらわしているのに対し、BS では、資産と負債の増減であらわしています。

よって、下の図のように、一致するのです。

資産	負債	一致	費用	収益
	資本金		当期純利益	
	利益剰余金			



実際には PL の損益の積み重ねが、利益剰余金と一致することになります。

BSには何が書かれているか？

お金の集め方を右側に！使い方を左側に！

資産	負債
	資本金
	利益剰余金

BSは基本にお金の流れを表しています。右側から入ってきて左側で実物の資産に投資される。その資産が更に将来のお金を生み出す元になるという動きを表しています。

右側の集め方

上の負債は、「他人資本」とよばれ、他人から借りたお金で構成されており、いずれ返済しなければなりません。

買掛金・支払手形・未払金・借入金など

下の**資本金+利益剰余金 = 純資産**は「自己資本」と呼ばれ、その名前の通り自分のお金で構成されているため返済不要です。

良いお金の集め方は、

- (1) 安定性(安全)があること
- (2) 調達コストが安いこと

です。

したがって、自己資金(資本金)が最も良い集め方で、次に長期借入金(比較的利率も低く返済期間も長い)になります。また、設定期間によっては、割賦購入やリースの利用も良いお金の集め方となります。ただし、借入金や割賦購入、リースには利息という名のコストがかかることを忘れてはなりません。

借りたお金は何に投資するのか？

その資産はどれほど将来のお金を生み出すことができ、返済はどのくらいで完了するのか？

そのためのコストとして、この資金調達は最適なのか？

お金を集める時にはこれらを考えながら最適な方法により調達することが重要です。

例えば

新たな事業を始めるにあたり、
設備投資や運転資金として 100,000 千円を金融機関から借入検討

(年利 2% 8 年返済)

(単位: 千円)

	返済額	借入金残高	利息	この投資により、 生み出したいお金
1 年後	12,500	87,500	1,875	14,375
2 年後	12,500	75,000	1,625	14,125
3 年後	12,500	62,500	1,375	13,875
4 年後	12,500	50,000	1,125	13,625
5 年後	12,500	37,500	875	13,375
6 年後	12,500	25,000	625	13,125
7 年後	12,500	12,500	375	12,875
8 年後	12,500	0	125	12,625
合計	100,000		8,000	108,000

計算を簡単にするため、1 年目から均等に返済をすると仮定しています。

この場合、1 年目から 14,375 千円の返済原資となる利益を生み出すための PL 計画ができないと、成り立たない投資となります。BS でお金の調達を考え PL の計画に結びつける。

やはり、BS と PL はつながっているのです。

今回は、BS と PL のつながり、お金の集め方 (BS の右側) についてお話をさせていただきました。

お金の使い方 (BS の左側) についてはまたの機会に・・・。